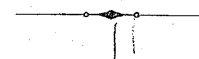


秘

昭和六年度

作業經過

昭和七年八月



海軍燃料廠研究部

昭和六年度作業經過目次

1. 一般經過概要	1
2. 昭和六年度試驗檢查並實驗成績調	3
(1) 一般分析試驗に關する統計	3
(2) 石炭及煉炭試焚成績概要調	4
(3) 石油類試驗及檢查に關する統計 (製油部試驗室)	5
3. 豫算	6
(1) 昭和六年度豫算決算調	6
(2) 全上出張旅費調	7
(3) 全上圖書費調	8
(4) 全上建造物補修費調	9
(5) 全上工事別人件費調	11
(6) 雇員及職工平均給料調	13
(7) 昭和六年度購入主要器具機械調	14
(8) 全上工事別消耗品及藥品使用高調	16
(9) 全上各科別破損器具機械調	16
(10) 全上廠内委託製作並修理費調	17
(11) 全上印刷所作業年報	19
4. 昭和六年度研究實驗成績報告類發行	20
(1) 研究實驗成績報告 (普通)	20
(2) 全上 (秘)	21
(3) 研究雜報	21
(4) 調查報告	22
(5) 石炭液化法報告 (極秘)	23

(6) 研究實驗成績報告 (極秘) -----	25
(7) 其の他 -----	25
5. 昭和六年度配員並異動調 -----	26
(1) 配員表 -----	26
(2) 判任官以上異動調 -----	27
(3) 雇員以下異動調 -----	30
6. 雇員以下出身學校並海陸軍出身者調 -----	34
7. 昭和六年度職工勤務関係調 -----	34
(1) 達刻者調 -----	34
(2) 公務負傷者調 -----	35
(3) 公私傷病休業者調 -----	35
(4) 事故休業者調 -----	35
8. 昭和六年度講演並雜誌會調 -----	35
(1) 部内講演 -----	35
(2) 部外講演 -----	37
(3) 特殊講演 -----	37
(4) 講習 -----	38
(5) 雜誌會 -----	38
9. 特許関係調 -----	42
10. 昭和六年度主要行事調 -----	44

----- (目次終) -----

昭和六年度作業経過

Ⅰ. 一般経過概要

本年度諸作業は順調に進捗せり。人事に於ては昭和六年内令第二〇二號を以て本廠定員の範囲内に於て必要に應じ研究部長は少將を以て補することを得と改正せられ六年十二月河瀬機関大佐少將に進級引續き留任のこととなれり。ウーデ^W法に依る液化實驗に立會の爲別府機関中佐獨逸に出張、帰朝後間もなく那智機関長に轉補後任として榎本機関中佐着任せり。滿洲事変突發するや寒地に於ける航空機用燃料及潤滑油使用状況視察調査の爲秋田技師、嘉納機関中佐滿洲に出張せり。

實驗室に於ける研究の進展に伴ふ實際化と九月突發せる支那事変に鑑み急速解決を必要とするものある爲研究項目の増加を來たし人員の増加を必要とし前年度末に於て總員 158 名なりし人員は本年度末に於て 171 名に増加せり。

建造物に於ては圖書の増加により狹隘なりし圖書庫の新築を行ひ舊圖書庫の一半を閲覧室とし後半を参考館に充つることとせり。又燃麻武瓦斯發生炉上家及機械室、メタノール合成工場を新設せり。

研究作業に於ては石炭液化の工業的實驗に資する實驗室的^的研究を進むると共にウーデ^W式石炭液化法並石炭液化機構の研究、頁岩油水素添加實驗を行ひ半工業的^的石炭液化

實驗裝置に於ては手馴しとして頁岩油水素添加實驗を施行し實驗毎に改造を加へ着々石炭液化實驗實施の域に進みつゝあり 水性瓦斯發生炉及メタノール合成裝置竣工し試運転を了せり 尚飛行船發動機用瓦斯燃料の製造炉竣工し製品は廣工廠に輸送し實驗施行の運びに至れり 水素製造炉、石炭液化廢瓦斯分解炉の設計を終り來年度に於て建設せんとす 潤滑油の使用限度決定の爲 4,500 時間の疲質實驗を行ひ使用限度に對する見界に於て一大進捗を見たり

石炭類分析法に就ては全分析法協議會案の決定發布ありたるを以て之を骨子とし更に註釋を施したるものを海軍の試験法とすべく立案せり

支那事變に際會するや部長以下部員總員にて備付圖書に據り滿蒙資源の調査を行ひ 又資源に乏しき戰時自給困難なる軍需品たる化学工業品に對する研究の必要を痛感し頁岩油の熱分解に依る航空機用燃料及エチレン瓦斯の製造、タービン酸の分解に依り火藥原料として必要なるベンゾール トルオール、石炭酸の製造其の他、アンチノック剤の研究、カストル油代用品の製造、石油類より芳香族炭化水素分離に関する研究を開始せり、尚X光線裝置及分光器を購入備付けたるを以て今後の研究に對し便宜を與ふること斯からざるべし

霞ヶ浦航空隊整備學生に對し又今年始めて潛水學校機關學生に對し燃料及潤滑油の講習を行ひ 又別表の如く部外講演を行ひたり 従業員學術技能向上の爲藥品鑑識

及對數計算競技、海軍常識の考查、微分積分學及電氣取扱法の講習を行ひたり

2. 昭和六年度試験検査並實驗成績調

(1) 一般分析試験に関する統計

種別 月別	石 炭		ピッチ		油類 性狀	其の他 雜件	計
	元素分析	工業分析	元素分析	工業分析			
四月		11			16	105	132
五月	1	42		8	16	196	263
六月		20		11	10	153	194
七月	18	33	6	21	28	141	247
八月	1	28			47	82	158
九月		31			37	110	178
十月	1	31		2	10	78	122
十一月		46		18	4	106	174
十二月		40		11	23	77	151
七年二月		18		7	15	219	259
二月	1	8		11	16	116	152
三月	1	33		5	15	302	356
計	23	341	6	94	237	1685	2386

(2) 石炭及煉炭試燒成績概要

種別	回数	100℃に石炭 1gに蒸発 水量平均(%)	灰及クリンカー 總量平均 (%)	發熱量 (カロリー)	記事
海軍煉炭(角)	1	9.9	6.1	7.936	
" (角)	1	10.9	6.9	7.916	
" (角)	2	10.4	6.7	7.942	
" (角)	1	10.4	6.4	7.889	
" (角)	5	10.8	6.0	7.969	
" (角)	2	11.0	6.0	8.049	
" (角)	1	10.8	6.7	7.971	
" (角)	1	10.4	7.2	7.997	
" (角)	1	10.7	6.6	7.961	
海軍煉炭(卵)	2	10.8	6.2	7.929	
" (卵)	1	11.0	6.0	7.940	
" (卵)	2	10.7	5.2	8.002	
" (卵)	4	11.1	6.3	8.016	
" (卵)	1	10.0	7.6	7.972	
" (卵)	1	10.9	6.6	8.039	
" (卵)	2	11.0	5.8	8.025	
第一種煉炭(卵型)	1	10.7	6.4	8.013	
" (北角型)	1	10.1	6.5	7.937	本廠生産品
試製煉炭(a)	1	11.0	7.0	7.951	
" (b)	1	10.8	6.2	7.967	
"	1	10.7	7.4	7.984	
" (d)	1	10.4	6.6	8.017	

試製煉炭(北角型)	2	10.8	6.2	8.029	
第二種煉炭(東南型)	1	9.6	13.3	7.396	
試製煉炭(C ₁)	1	10.9	7.9	7.962	
" (C ₂)	1	10.7	6.9	8.017	
" (b ₂)	1	10.4	7.2	7.957	
" (b ₃)	1	10.5	6.9	7.969	
" (b ₁)	1	10.5	9.5	7.923	
" (卵) (Ⅱ)	1	11.0	5.7	7.924	
" (卵) (I)	1	10.9	6.0	7.907	
" (角) (Ⅱ)	1	10.5	5.1	7.901	
" (角) (I)	1	10.0	5.3	7.857	
" (A)	1	10.0	6.4	7.990	
" (B)	1	10.4	6.0	7.932	

(3) 石油類試験及検査に關する統計 (製油部試験室)

種別 月別	航空 二號 揮發油	航空 三號 揮發油	普通 揮發油	一號 石油	二號 石油	輕油	撫順 頁岩油	加州 原油	オハ 原油	回收油	計
4	1	10	8		1	1	1				22
5		11	4	2	1	1	3	2			24
6		12	8	3	2	1	2	3			31
7		17	5	2	2	1	2	5	7		41
8		18	6	1	2	1			21		49
9		16	8	3	1	1			21		50
10		11	10	1	1	1	2		3		29
11	1	21	8	2	1	1	3				37

12		15	8	3	1	1	3				31
14		16	8	2	1	3	4				34
2		22	4	5	1	1	3			1	37
3		8	8	1	1	1	3				22
計	2	117	85	25	15	14	26	10	52	1	407

3. 豫 算

(1) 昭和六年度豫算決算調

科 目	令示(配件)予算	豫算使用高	豫算残高	記 事
廳 費	1,317,000	1,309,740	7,260	
内 國 旅 費	1,832,680	1,816,460	16,220	
建造物				
補 修				
新 築 費	15,000,000	9,948,000	5,052,000	
修 繕 費	1,000,000	1,080,600	80,600	
計	2,500,000	11,028,600	8,528,600	
試 験 及 研 究 費				
材 料 費				
器 具 機 械	73,157,000	95,442,543	22,285,543	配件額に節約額13,159円3角を、外共通品3,695円を購買
消 耗 品	49,395,000	29,615,274	19,779,726	
圖 書	6,000,000	9,459,580	3,459,580	
計	128,554,000	134,517,397	5,963,397	
試 験 研 究 委 託 費	3,000,000	3,072,621	72,621	
人 件 費				
職 工 人 夫	57,494,000	55,635,570	1,858,430	内人夫賃1,900,000を超過
備 給	29,526,000	27,084,420	2,441,580	
慰 勞 金	0	4,990,090	1,990,090	
計	87,020,000	84,710,080	2,309,920	

合 計	218,574,000	222,300,098	3,726,098	
甲 受 託 研 究 費				
材 料 物 品	110,127,000	66,392,782	43,734,218	満鉄より供給の石炭代1,621円06を含む
職 工	15,450,000	12,558,940	2,891,060	
人 夫	1,400,000	82,500	1,317,500	
計	16,850,000	12,641,440	4,208,560	
旅 費	2,000,000	1,191,730	808,270	
報 酬 金	2,400,000	1,791,770	608,230	
備 給	4,800,000	2,277,800	2,522,200	
雜 件 費	500,000	516,670	16,670	
慰 勞 金	0	346,500	346,500	
合 計	136,677,000	85,158,692	51,518,308	
乙 受 託 研 究 費				
	14,200,000	材 11,093,090		
		人 2,962,030	1,020	
		旅 143,860		
總 計	372,602,680	324,783,970		
記 事	修理工場分割 試験及研究費 19,000円 受託研究費 3,450円 本豫算外に年度未費 備 給(試、研) 414,160 報酬及備給(度、甲) 54,300 備 給(度、乙) 13,120 を他科目に支拂せり			

(2) 昭和六年度出張旅費調

科目	使用別	高等官	判任官	雇員	職 工	計
内 國 旅 費		121,450	146,290	45,870		181,610
試 験 及 研 究 費					211,370	211,370
甲 受 託 研 究 費						
旅 費	計 805	490	70,820	66,600		942,910

甲受託研究費	部外費	33,820		15,000		24,820
旅費						
甲受託研究費				20,800		20,800
職工人工				14,000		14,000
"						
乙受託研究費		143,860				143,860
部外旅費		1,536,180				1,536,180
合計		3,930,800	217,110	540,320	246,170	4,934,400

備考 部外旅費中 25,980 是海軍工廠潜水艇部長吉田機
関大佐へ支拂のものと含む

(3) 昭和六年度圖書費調

科	目	金額
廳費	圖書及印刷費	617,400
	兵要及技術圖書費	1,309,740
試験及研究費		9,457,580
雜給雜費雜件費		186,250
合計		11,572,970

内 譯

部別	内外雜誌	ハック ナンバー	圖書費 (單行本)	紙本費	器具費	消耗品費	計
研究部	2,684,480	3,683,250	4,043,510	962,150	2,266,400	208,160	13,848,010
煉炭部	154,020		13,800				167,820
製油部	146,320		10,000				156,320
會計部	113,000		41,000				154,000
醫務部	140,480		74,900				215,380

副官	45,000		75,850				121,550
教習所	8,750		277,910				286,660
計	3,272,750	3,683,250	4,536,970	962,150	2,266,400	208,160	14,953,780

(4) 昭和六年度建造物補修費調

(イ) 新 築

建物 番號	名 稱	構 造	數量	價 格	竣工 年月	記 事
230	瓦斯圧送唧筒所	木造平屋掘立	24.09坪	418,000	昭和 6-9-20	
235	瓦斯發生所	木造二階	延43.60 建21.80坪	481,330	6-12-26	
239	高圧成實驗場	木造平屋掘立	32.66坪	550,000	7-3-14	
240	全 唧筒所	"	1.818坪	50,000	7-3-14	
245	圖 書 庫	鉄筋混凝土 中二階	延71.28 建53.04坪	9,678,232	7-3-30	
244	渡廊下	鉄筋混凝土	4.60坪	504,070	7-3-30	
合 計			延178.048 建138.008坪	11,681,632		

(ロ) 修 繕

建物 番號	名 稱	價 格	竣工年月	記 事
12	分析所	99,000	昭和 6-4-9	修 繕
12	分析所	300,000	6-4-30	"
42	第一實驗場	28,400	6-5-20	"
12	分析所	75,000	6-5-21	"
12	分析所	41,200	6-5-22	"
34	印刷所	44,000	6-8-3	模様替修繕
34	印刷所	143,000	6-12-21	修 繕
194	圖 書 庫	350,000	7-2-15	模様替

計	1080	600		
總計	12,762	232		

(5) 昭和六年度工事別人件費調

工事別	種別 雇 員 給			
	本給	手當	慰勞金	計
燃料の實驗室研究	3,558 ^円 580	438 ^円 430	358 ^円 380	4,355 ^円 390
燃料の實用實驗	5,900 ^円 180	851 ^円 620	583 ^円 770	7,335 ^円 570
潤滑油の研究實驗	1,436 ^円 400	201 ^円 600	144 ^円 840	1,782 ^円 840
石炭液化の研究實驗	5,038 ^円 940	888 ^円 180	511 ^円 920	6,439 ^円 040
合成燃料の研究實驗	741 ^円 600	91 ^円 680	74 ^円 760	908 ^円 040
航空船用瓦斯燃料の製造	781 ^円 200	111 ^円 520	78 ^円 720	971 ^円 440
燃料類の試験検査	699 ^円 600	102 ^円 240	70 ^円 560	872 ^円 400
資源調査	2,093 ^円 700	338 ^円 080	211 ^円 200	2,642 ^円 980
第一附属費	3,705 ^円 320	515 ^円 390	374 ^円 060	4,594 ^円 770
第二附属費	2,701 ^円 610	368 ^円 650	265 ^円 880	3,336 ^円 140
計	26,657 ^円 130	3,907 ^円 390	2,674 ^円 090	33,238 ^円 610

計	1,080	600		
總計	12,762	232		

(5) 昭和六年度工事別人件費調

工事別	種別	雇 員 給				職	
		本給	手當	慰勞金	計	定時間	増服業
燃料の實驗室研究		3,558 ^円 580	438 ^円 430	358 ^円 380	4,355 ^円 390	7,374 ^円 410	84 ^円 43
燃料の實用實驗		5,900 ^円 180	851 ^円 620	583 ^円 770	7,335 ^円 570	8,029 ^円 280	325 ^円 16
潤滑油の研究實驗		1,436 ^円 400	201 ^円 600	144 ^円 840	1,782 ^円 840	2,541 ^円 720	4 ^円 90
石炭液化の研究實驗		5,038 ^円 940	888 ^円 180	511 ^円 920	6,439 ^円 040	16,245 ^円 950	934 ^円 09
合成燃料の研究實驗		741 ^円 600	91 ^円 680	74 ^円 760	908 ^円 040	921 ^円 610	11 ^円 78
航空船用瓦斯燃料の製造		781 ^円 200	111 ^円 520	78 ^円 720	971 ^円 440	1,605 ^円 100	60 ^円 50
燃料類の試験検査		699 ^円 600	102 ^円 240	70 ^円 560	872 ^円 400	7,705 ^円 780	34 ^円 52
資源調査		2,093 ^円 700	338 ^円 080	211 ^円 200	2,642 ^円 980	1,509 ^円 600	6 ^円 49
第一附属費		3,705 ^円 320	515 ^円 390	374 ^円 060	4,594 ^円 770	3,859 ^円 520	265 ^円 68
第二附属費		2,701 ^円 610	368 ^円 650	265 ^円 880	3,336 ^円 140	4,283 ^円 570	291 ^円 75
計		26,657 ^円 130	3,907 ^円 390	2,674 ^円 090	33,238 ^円 610	54,076 ^円 540	2,019 ^円 30

(5) 昭和六年度工事別人件費調

種別 工事別	雇 員 給				職 工 給				人 夫 給	合 計
	本 給	手 當	慰 勞 金	計	定 時 間	増 服 業	附 随 工 費	計		
燃料の實驗室研究	3,558 ^円 580	438 ^円 430	358 ^円 380	4,355 ^円 390	7,374 ^円 410	84 ^円 430	1,742 ^円 300	9,201 ^円 140	0 ^円	13,556 ^円 530
燃料の實用實驗	5,900 ^円 180	851 ^円 620	583 ^円 770	7,335 ^円 570	8,029 ^円 280	325 ^円 160	1,830 ^円 910	10,185 ^円 350	0 ^円	17,520 ^円 920
潤滑油の研究實驗	1,436 ^円 400	201 ^円 600	144 ^円 840	1,782 ^円 840	2,541 ^円 720	4 ^円 900	283 ^円 670	2,830 ^円 290	0 ^円	4,613 ^円 130
石炭液化の研究實驗	5,038 ^円 940	888 ^円 180	511 ^円 920	6,439 ^円 040	16,245 ^円 950	934 ^円 090	4,147 ^円 900 (外費) 75,830	21,403 ^円 970	82 ^円 500	27,925 ^円 310
合成燃料の研究實驗	741 ^円 600	91 ^円 680	74 ^円 760	908 ^円 040	921 ^円 610	11 ^円 780	187 ^円 070	1,120 ^円 460		2,028 ^円 500
航空船用瓦斯燃料の製造	781 ^円 200	111 ^円 520	78 ^円 720	971 ^円 440	1,605 ^円 100	60 ^円 500	425 ^円 190	2,090 ^円 790		3,062 ^円 230
燃料類の試験検査	699 ^円 600	102 ^円 240	70 ^円 560	872 ^円 400	7,705 ^円 780	34 ^円 520	1,546 ^円 530	9,286 ^円 830		10,159 ^円 230
資 源 調 査	2,093 ^円 700	338 ^円 080	211 ^円 200	2,642 ^円 980	1,509 ^円 600	6 ^円 490	310 ^円 760	1,826 ^円 850		4,469 ^円 830
第 一 附 属 費	3,705 ^円 320	515 ^円 390	374 ^円 060	4,594 ^円 770	3,859 ^円 520	265 ^円 680	753 ^円 380	4,878 ^円 580	1,904 ^円 740	11,378 ^円 090
第 二 附 属 費	2,701 ^円 610	368 ^円 650	265 ^円 880	3,336 ^円 140	4,283 ^円 570	291 ^円 750	879 ^円 040	5,454 ^円 360		8,790 ^円 500
計	26,657 ^円 130	3,907 ^円 390	2,674 ^円 090	33,238 ^円 610	54,076 ^円 540	2,019 ^円 300	12,182 ^円 580	68,278 ^円 420	1,987 ^円 240	103,504 ^円 270

職 工 給				人夫給	合 計
定時間	增服業	附隨工費	計		
7,374.410	84.430	1,742.300	9,201.140	0	13,556.530
8,029.280	325.160	1,830.910	10,185.350	0	17,520.920
2,541.720	4.900	283.670	2,830.290	0	4,613.130
16,245.950	934.090	(附費) 75.830 4,147.900	21,403.770	82.500	27,925.310
921.610	11.780	187.070	1,120.460		2,028.500
1,605.100	60.500	425.190	2,090.790		3,062.230
7,705.780	34.520	1,546.530	9,286.830		10,159.230
1,509.600	6.490	310.760	1,826.850		4,469.830
3,859.520	265.680	753.380	4,878.580	1,904.740	11,378.090
4,283.570	291.750	879.040	5,454.360		8,790.500
54,076.540	2,019.300	12,182.580	68,278.420	1,987.240	103,504.270

(6) 雇員及職工平均給料調 (昭和七年三月三十一日調)

(1) 雇員

一人月額	員數	一人月額	員數	一人月額	員數	一人月額	員數	一人平均月額
85.000	1	63.100	1	58.800	1	51.800	1	60.810
75.200	1	62.300	2	58.400	1	48.700	1	
70.700	1	61.900	2	57.900	1	47.400	1	
70.500	1	61.800	1	56.900	1	43.600	1	
70.000	2	60.800	1	56.300	1			
68.100	1	60.600	2	55.900	1			
65.600	1	59.900	2	54.400	1			
64.800	2	59.500	1	53.800	1			
64.700	1	59.200	1	51.900	2			

(2) 職 工

一人日額	員數	一人日額	員數	一人日額	員數	平均賃錢
3.700	1	1.950	7	1.450	2	1.652
3.200	1	1.900	8	1.350	1	
2.900	1	1.850	7	1.300	4	
2.500	3	1.800	12	1.250	3	
2.300	1	1.750	6	1.200	5	
2.200	4	1.700	4	1.150	1	
2.150	1	1.650	2	750	1	
2.100	3	1.600	6	600	3	
2.050	2	1.550	10	500	9	
2.000	1	1.500	7			

(7) 昭和六年度購入主要器具機械調 (固定資本器具機械)

品番	品名	金額	数量	製造所	能力寸法
487	潤滑油試験器	984,995	1	廣工廠	回転数毎分1500回転
488	全上	984,995	1	"	"
486	X光線器	3,158,400	1	島津製作所	使用電力交流220V 金属管状を使用し35,000 ボルト5mAアンペアにて X光線を発生す
522	分光器	7,000,000	1	"	紫外部に於て1センチメートル の光
611	瓦斯貯槽	10,975,130	1	長岡鐵工所	容量1000立方米
612	全上	7,195,770	1	"	容量400立方米
619	瓦斯発生炉	14,733,673	1	大阪鐵工所	水素瓦斯発生量1日5000立方 米
643	高压合成機械	16,403,690	1	神戸製鋼所	原料瓦斯取扱量毎時32立 方米、圧力2,000kg/cm ² 時 毎日1メートル製造量100立 方米
530	油分解蒸溜装置	719,565	1	千野製作所	容量1000cc、管型 温度60 度 圧力50気圧に耐す
492	加圧釜	945,000	1	島津製作所	回転式容量500cc、1000 気圧に耐す 温度摄氏500度 (アントリウム)
493	全上	945,000	1	"	"
642	印刷機械	425,000	1	牧瀬砂太郎	1時間12,000枚刷
648	7.5キロワット 交流電動機	413,000	1	荏原製作所	周波数50ヘルツ 回転数 毎時750、電圧220ボルト 極数8極、ケージローター式
649	唧筒機械	292,900	1	日野屋商店	M.B.3 S.T.型直結式口径 1.5" 3段式にして揚程水 12.50尺 毎分4立方尺
650	全上	292,900	1	"	"
515	計算器	400,000	1	タカチ計算 器株式會社	置数レバー9桁 左方表数輪10桁 右方表数輪18桁

613	瓦斯発生装置	2,259,340	1	日立製作所	瓦斯発生量一日50立方米
510	自記高温計	1,908,000	2	北辰電氣株 式會社	電流交流220V、50 ヘルツ 使用温度0度より 600度 10度刻
511	全上				
512	全上	1,336,000	1	"	電流交流220V、50ヘルツ 使用温度0度より600度迄 10度刻
460	高熱板温器	1,080,000	4	清水莊平	目盛0-1600 10度目盛
461	全上				全上
462	全上				全上
463	全上	360,000			目盛0-1200 10度目盛
522	瓦斯計量器	976,135	1	品川製作所	濕式 容量最大毎時30立方 米 耐圧力 水柱30米
624	三キロワット 交流電動機	125,000	1	品川電機製 作所	周波数50ヘルツ 回転数1500 電圧200ボルト
490	電氣制動力計	1,646,000	1	"	スワインソン・ファールト型 25軸馬力、回転数全430 最低回転数200
491	全上	944,000	1	"	全上 10軸馬力、回転数全 力毎分1200回転 最低回転 数700
529	全上	1,184,590	1	"	全上 3軸馬力 回転数毎分1000-2,500
526	加圧釜	571,650	1	吳海軍工廠	容量2.4立 温度摄氏500度 300気圧 に耐す
528	加圧釜	1,948,000	1	西製作所	容量5立、常用摄氏500度 250気圧に耐す

(8) 昭和六年度工事別消耗品^{及藥品}使用高調

科別	種別	消耗品	藥品	合計
燃料の實驗室研究	3,277 ^円	499	2,813 ^円 835	6,111 ^円 334
燃料の實用實驗	2,431	720	883 999	3,319 719
潤滑油の研究實驗	886	570	187 528	1,074 098
石炭液化研究實驗	4,422	461	1,058 513	5,480 974
合成燃料の研究實驗	401	112	624 010	1,025 122
航空船用新燃料の製造	454	871	54 594	509 465
燃料類の試験検査	1,432	489	352 022	1,384 511
資源調査	265	902		265 902
第一附属費	3,326	448		3,326 448
第二附属費	1,671	000	707 697	2,378 697
合計	18,590	072	3,682 198	25,272 270

(9) 昭和六年度各科別破損器具機械調

科別	金額	記 事
研究科	3,246 ^円 370	固定資本 器具機械を含む 熱量計、蒸気爐等
實驗科	2,911 520	固定資本 器具機械を含む 空気圧搾唧筒、石炭乾溜器、蒸気爐等、 加圧管、製氷器等
印刷所	1 300	
合計	6,159 190	

(10) 昭和六年度廠内委託製作並=修理費調

(1) 委託製作

工場別	工 費	材料費	附属費	計
研究科	1,395 ^円 005	(3,508 ^円 207) 1,011 067	601 160	6,515 439
工 務	74 920	(204 ^円 098) 86 966	27 200	373 184
實驗科一班	193 710	117 440	67 600	378 750
實驗科特別班二部	1,635 970	(1,542 ^円 499) 1,417 368	609 200	5,205 037
教習所	90 470	52 318	26 880	169 668
計	3,390 075	(5,254 ^円 804) 2,665 159	1,332 046	12,642 078

備考 括弧内の数字は提供材料

(2) 部内製作

工場別	工 費	材料費	附属費	計
實驗科一班	26 ^円 390	68 ^円 849	—	95 ^円 239
實驗科特別班二部	315 932	714 000	—	1,029 932
計	342 322	782 849	—	1,125 171

(3) 修理費調

工場別	工 費	材料費	附属費	計
研究科	570 ^円 520	(12 ^円 784) 906 538	209 200	1,699 042
實驗科一班	1,130 320	733 007	423 040	2,286 367
實驗科特別班二部	376 310	(231 ^円 800) 223 554	147 040	978 704
印刷所	256 145	339 320	92 400	687 865
計	2,333 295	(244 ^円 584) 2,202 419	871 680	5,651 978

備考 括弧内の数字は提供材料

(二) 雜修理費調

工場別	工費	材料費	附屬費	計
研究科	1,192 185	501 521	413 240	2,106 946
工務	326 770	164 685	111 280	602 735
實驗科一班	656 075	(85 054) 360 533	240 720	1,342 382
實驗科特別班二部	91 270	11 323	33 200	135 793
印刷所	35 090	9 250	12 000	56 340
教習所	101 970	53 891	34 000	189 861
計	2,403 360	(85 054) 1,101 203	844 440	4,434 057

備考 括弧内數字は提供材料

(ホ) 据付改造移轉費調

工場別	工費	材料費	附屬費	計
(改造)實驗科一班	287 430	175 743	113 300	576 473
(据付)全上	1,014 871	302 657	398 100	1,715 628
(移轉)研究科	20 900	1 310	8 000	30 210
計	1,323 201	479 710	519 400	2,322 311

(ハ) 委託研究費(甲)ニ依3製作、修理、据付費調

種別	工費	材料費	附屬費	計
委託製作	609 965	(1796 056) 30 391	229 760	2,666 172
部内製作	31 800	345 924		377 724
修理	1,456 860	(2,511 860) 119 700	523 840	4,612 260
据付	32 420	(100 423)	10 800	143 643
計	2,131 045	(4,408 339) 496 015	764 400	7,799 799

備考 括弧内の數字提供材料

(イ) 委託研究費(乙)ニ依3製作修理費調

種別	工費	材料費	附屬費	計
委託製作	68 260	(184 428) 80 959	25 200	368 847
部内製作	23 850	477 490	—	501 340
修理	2 260	—	800	3 060
計	94 370	(184 428) 558 449	26 000	873 247

備考 括弧内の數字は提供材料

(11) 昭和六年度印刷所作業年報

要求元	件数	部数	枚数	頁数	紙價
副官	383	115,538	1,300	414,620	162 000
煉炭部	36	85,770	259	147,152	85 660
製油部	81	95,302	810	304,630	134 230
研究部	124	138,038	2,665	1,319,538	550 400
會計部	96	166,620	1,011	426,693	289 540
醫務部	27	19,750	210	64,260	22 730
修理部	40	71,220	305	176,812	85 340
合計	787	692,238	6,560	2,853,705	1,329 900
一月平均	66	57,686	547	237,809	110 825
人件費計					4,083 040
動力需品費					670 160
一月平均人件費					340 250
全上動力需品費					55 847
一頁二付印刷費					00206

4. 昭和六年度研究實驗成績報告類發行

(1) 研究實驗成績報告 (普通)

発行番號	題 目	発行年 月	主任研究實驗者
第51號	石炭低温タール中の「アスファルト」に就て	6~4	海軍技師 山口昌三
第52號	石炭低温乾溜研究(第三報)	6~5	海軍技師 山口昌三 嘱託 米谷省一 技 生 北村 白
第53號	高压水素下に於ける芳香族エーテル類の熱分解(第三報) メー及β-ナフタレンオキサイド	"	海軍技師 小川 亨
第54號	同上(第四報) テトラハイドロゲフェニレンオキサイド	"	同上
第55號	高压水素下に於ける「フェノール」の熱分解	"	海軍技師 小川 亨 海軍技手 高橋功次
第56號	ペトロレンの研究(第一報)	6~7	海軍機関少佐 横田俊雄
第57號	石炭低温タールの成分に就て	6~8	理学博士 中井利三郎
第58號	ピッチの研究(其一) 煉炭中の有害成分に就て	6~9	嘱託 住本誠治
第59號	同上(其二) 石炭ピッチの揮発性成分に就て	"	嘱託 住本誠治 技 生 根本福治
第60號	同上(其三) 石炭ピッチの生理作用に就て 痛覺刺激性に就て 附、石炭タールピッチ揮発性成分に就て	6~10	同上

第61號	潤滑油の製造に関する研究 (第一報) オバ原油より二號外部原油の試製に就きて	6~10	嘱託 景平一雄 技 生 坂本貞彦
第62號	加熱過程に於ける石炭比熱の變化に就て	6~12	海軍機関少佐 横田俊雄 技 生 磯谷延治

(2) 同上 (秘)

秘第7號	低温タールと重油との混合油の貯藏實驗	6~8	海軍技師 山口昌三 技 生 北村 白
秘第8號	揮発油の密閉貯藏に関する實驗報告(第二報)	6~11	海軍技師 秋田 稔 技 生 杉原秀夫
秘第9號	新規格による試製航空用揮発油に関する實驗報告	"	海軍技師 秋田 稔 海軍技手 中面 卓 技 生 小西治市 技 生 杉原秀夫
秘第10號	台湾錦水油井噴出瓦斯實用實驗報告	"	同上

(3) 研究雜報

第17號	石炭の試料採取法 加压貯藏せる石炭瓦斯中に生成するFe(CO) ₅ に就て 恒温豫熱器に就て 高沸タール酸の熱分解に就て 石炭の顯微鏡的研究法に就て	6~4	原田梅雄 佐々木和吉 波多野源太郎 技 生 北村 白 技 生 根本福治
------	---	-----	---

第18號	石炭液化に於けるアンモニア生成問題	6~8	海軍技師 小川 亨
第19號	購入石炭及見本炭分析成績表 (昭和五年度) 購入原油及重油試験成績表 (昭和五年度)	6~8	海軍燃料廠
第20號	石炭の酸化に就て	"	内山 英夫
第21號	Predissociation に就て 活性水素に就て	6~11	嘱託 藤本 春季
第22號	真空蒸溜の受器に就て	7~1	本居 昇
	潤滑油の化学的構造		磯濱 松一
	融媒と沸点と臨界温度との 間の關係に就て		藤井 武志
	Alkyl-Naphthalene の合成		海軍技師 山口 昌三
	Cresols 及高級 Phenols 類の Phenol 分離定量法		野村 寅一
第23號	燃料酒精の物理的性状及性能	7~3	海軍技師 藤尾 哲

(4) 調査報告

第8號	揮発油に就て(其四) 硫黄化合物	6~11	海軍技師 秋田 穰

(5) 石炭液化法報告 (極秘)

特 第19號	酸化鐵の有無が石炭液化に及ぼす影響 (其二)	6~5	海軍技師 小川 亨 海軍技師 高橋 功夫 技 生 棟 近 薫
特 第20號	反應温度が石炭液化に及ぼす影響 (其二)	"	同 上
特 第21號	本邦産各種石炭の液化實驗	"	同 上
特 第22號	觸媒の種類が石炭液化に及ぼす影響 (其一) 金屬及其の酸化物の觸媒的効果	6~6	海軍技師 小川 亨 海軍技師 高橋 功夫 技 生 棟 近 薫
特 第23號	同 上 石炭及分及其の成分の觸媒的効果	"	海軍技師 小川 亨 海軍技師 高橋 功夫 技 生 棟 近 薫
特 第25號	酸化鐵の量が石炭液化に及ぼす影響	"	同 上
特 第15號	加熱又は冷却の速度が石炭液化に及ぼす影響	"	海軍技師 小川 亨 海軍技師 高橋 功夫
特 第28號	石炭液化装置試運轉(第一報) 加圧原料流動試験並に装入 唧筒容量試験	6~7	海軍機関少佐 横田 俊雄 海軍技師 田島 悦郎
特 第29號	高圧水素下に於ける石炭の熱分解 (第一報)	"	海軍機関少佐 横田 俊雄 技 生 伊藤 駿一
特 第30號	石炭液化實驗用小型加圧釜材質 試験成績	6~6	兵 海軍工廠製鋼部
特 第24號	觸媒の種類が石炭液化に及ぼす影響 酸化鐵の種類と觸媒的効果	6~6	海軍技師 小川 亨 海軍技師 高橋 功夫 技 生 棟 近 薫

特 第26號	反應圧力が石炭液化に及ぼす 影響 (其二)	6~7	海軍技師 小川 亨 海軍技手 高橋功次 技 生 棟近 葉
特 第27號	水素の純度が石炭液化に及ぼす 影響	"	同 上
特 第31號	石炭粉砕に関する實驗	6~8	海軍機関少佐 横田俊雄 技 生 富山雅壽
特 第33號	発生期水素に依る石炭液化法	"	海軍機関少佐 横田俊雄 技 生 伊藤 駿一
特 第34號	石炭液化装置試運転 (第一報) 水素加圧原料流動試験並 装入即筒容量試験	6~9	海軍機関少佐 横田俊雄 海軍技手 田島悦郎
特 第35號	同 (第三報) 水素加圧加熱原料流動試験 並装入即筒容量試験	"	同 上
特 第36號	同 (第四報) 水素加圧石炭流動試験並 装入即筒容量試験 附 石炭原料流動摩擦試験 並高圧端子耐圧試験	"	同 上
特 第41號	撫順産頁岩油の高圧水素下に 於ける熱分解 (第一報)	6~10	海軍技師 小川 亨 海軍技手 高橋功次 技 生 棟近 葉
特 第42號	ローテ ¹ 氏法による石炭液化 實驗 (其一)	6~11	同 上
特 第32號	水素瓦斯加熱に関する實驗	7~2	海軍機関少佐 横田俊雄 海軍技手 田島悦郎

特 第37號	低温タール中の、アスファルテン質の 高圧瓦斯下に於ける熱分解 (第一報)	7~2	海軍技師 山口昌三 囑 託 米谷省一 技 生 藤井軍治
特 第38號	同 (第二報)	"	同 上
特 第43號	撫順産頁岩油の高圧水素下に 於ける熱分解 (第二報)	"	海軍技師 小川 亨 海軍技手 高橋功次 技 生 棟近 葉

(6) 研究實驗成績報告 (極秘)

極秘 第1號	クラカン重油噴霧試験 報告 (第一報)	6~4	海軍機関少佐 宮下博雄 海軍技手 中西 卓 技 生 室本甚吉 同 箕谷恒一
極秘 第2號	同 (第二報)	7~2	海軍機関少佐 高橋伊三 海軍技手 中西 卓 技 生 室本甚吉 同 箕谷恒一

(7) 其の他

	ビートル油實用實驗報告	6~5	海軍技師 秋田 穰 囑 託 栗平一雄 海軍技手 中西 卓
	燕印潤滑油に関する實驗 報告	"	同 上
	ハイロファックス實用實驗報 告	6~6	海軍技師 秋田 穰 海軍機関中佐 嘉納吉彦 海軍機関少佐 赤羽銀次郎 海軍技手 中西 卓

石炭類分析法(案)	7~2	海軍燃料廠
電気取扱法	6~10	海軍燃料廠
満蒙資源	7~2	海軍燃料廠

5. 昭和六年度配員並に異動調

(1) 配員表 (昭和六年十二月二十日調)

科 別	高等官	判任官	雇員	職 工				計
				工手	職手	並職工	見習職工	
部 長	1							
工務係	庶務・工務	1 (兼)	1 (兼)			1	4	5
	倉庫				1			1
	印刷				1 (兼)	6		7
調 査 科	1 (兼)		5		1	2		3
研 究 科	第一班	2 (兼)	1		2	5	3	10
	第二班	3 (兼)	4		1	4	1	6
	第三班	3	1 (兼)	2	1	4	6	13
	第四班	1 (兼)	1			13		13
	特別班	2 (兼)	2			3	1	4
実 験 科	第一班	3 (兼)	8		8	10	1	19
	特別班	1	3		3	15		18
	第二部	1	2		4	5		9
航空船用瓦斯燃料研究所	1 (兼時勤務)		1		2	3		5
教 習 所			4			1		1
計	11	5	38	1	職手26 佐長1	74	12	114

備考 本表以外に常時勤務の兼務部員1及兼務部員5あり

(2) 判任官以上異動調

年月日	事 項	官 氏 名
6-5-8	油泥處理調査委員を命ず	海軍技師 江口 孝
"	"	嘱託 住本誠治
5-9	獨逸へ出張を命ず	海軍機関中佐 別府良三
5-11	兼研究部工務主任を免す	研究科分機兼研究部工務主任 海軍機関中佐 別府良三
"	兼研究部工務主任を命ず	實驗科分機兼研究部分機 海軍機関少佐 並河 孝
"	通常物品(研究部用品)取扱主任を免す	海軍機関中佐 別府良三
"	通常物品(研究部用品)取扱主任を命ず	海軍機関少佐 並河 孝
"	見習職工教習所教官を免す	海軍機関中佐 別府良三
"	見習職工教習所教官を命ず	海軍技師 江口 孝
"	施設調査會委員を命ず	海軍機関少佐 並河 孝
"	傷災害防止調査委員を命ず	" "
"	油泥調査委員を命ず	" "
"	過剰石油處理調査委員を命ず	" "
6-27	粉木式泡沫消火裝置實驗委員を命ず	" "
"	"	海軍技師 藤尾 馨
8-22	理学博士の學位を受く	海軍技師 山口昌三
9-22	"	海軍技師 小川 亨
10-10	帰 朝	海軍機関中佐 別府良三

6-10-15	敘正七位	從七位	藤尾 誓
"	"	從七位	江口 孝
10-24	補海軍工廠航空機部検査官兼 海軍燃料部員 海軍燃料廠研 究部員	海軍機関少佐	齊藤秀彦
"	補海軍航空本部出佐兼造兵監督官 米國へ出張を命ず	海軍機関少佐	赤羽銀次郎
11-14	補那智機 関長	海軍機関中佐	別府良三
"	補海軍燃料廠研究部員	海軍機関少佐	榎本隆一郎
11-24	還 艦	海軍機関中佐	別府良三
11-25	砲球部主任に指定す	囃 託	果平一雄
11-28	石炭液化法研究委員會委員を命ず	海軍機関少佐	榎本隆一郎
"	見習職工教習所教官を命ず	"	"
"	研究科分擔 兼 調査科主任を命ず	"	"
"	着 任	"	"
12-1	任海軍少將	海軍機関大佐 正四位勲三等 子爵	河瀬 真
12-1	任海軍機関中佐	海軍機関少佐 從六位勲五等	榎本隆一郎
12-9	任海軍技手		米谷省一
"	給六級俸		"
"	任海軍燃料部附を命ず		"
12-14	還 艦	海軍技手	米谷省一

7-1-8	兼實驗科分擔研究部工務主任を命ず	研究科分擔 兼 調査科主任 海軍機関中佐	榎本隆一郎
"	兼研究部工務主任を免す	實驗科分擔 兼 研究科分擔 研究部工務主任 海軍機関少佐	並河 孝
"	傷災害防止調査委員を命ず	海軍機関中佐	榎本隆一郎
"	過剰石油處理調査委員を命ず	"	"
"	油泥處理調査委員を命ず	"	"
"	粉末式泡沫消火裝置實驗委員を命ず	"	"
"	施設調査會委員を命ず	"	"
"	傷災害防止調査委員を免す	海軍機関少佐	並河 孝
"	過剰石油處理調査委員を免す	"	"
"	油泥處理調査委員を免す	"	"
"	粉末式泡沫消火裝置實驗委員を免す	"	"
"	施設調査會委員を免す	"	"
1-20	敘正六位	從六位勲五等	榎本隆一郎
"	兼補海軍燃料廠製油部員	海軍燃料廠研究部員 海軍機関中佐	榎本隆一郎
2-13	兼燃料研究所技師 叙高等官四等	海軍機関中佐 正六位勲五等	榎本隆一郎
3-11	海軍燃料廠参考館設置委員長を命ず	海軍少將子爵	河瀬 真
"	任 委員を命ず	海軍機関中佐	榎本隆一郎
"	任 委員附を命ず	海軍技手	吉弘太作
3-31	賜八級俸	海軍技師	藤尾 誓
"	賜九級俸	海軍技師	江口 孝

7-3-31	給五給俸	海軍技手 高橋功夫
"	"	海軍技手 田島悦郎

(3) 雇員以下異動調

學校別	雇 員 入			解 雇 出		
	雇員	職工	記 事	雇員	職工	記 事
帝國大學						
高等工業	3	2	雇員は職工より転雇		3	
工業學校		6	職工二名他部より備替		3	
中學校					1	
其 他		6	職工三名他部より備替		4	
見習工		4				
計	3	18			11	

年月日	事 項	職 氏 名
6-4-1	實驗工に備替	分析手 田中政雄
"	分析工に備替	實驗工 和田武男
"	刷版工に備替	記録工 中村一夫
"	實驗手を命ず	實驗工 田中政雄
"	分析工に備入 日給一円五十銭	伊崎作一
"	"	野村正治
"	"	三原正博
"	見習職工に備入 日給五十銭	廣 和衛
"	"	藤中幸登

6-4-1	見習職工に備入 日給五十銭	市川 睦
"	"	名勢茂樹
"	見習職工成業につき分析工に採用 日給一円十五銭	見習職工 林 敏太郎
"	"	中村政夫
"	"	藤本正美
"	日給一円十銭	増原主計
"	依頼解雇	分析工 村橋武之
"	煉炭部電気工より研究部實驗工に備替	實驗工 田中一男
"	煉炭部より備替	雑工 藤井良雄
"	分析工に試備 日給二円五十銭	戸倉孝之
"	" 日給二円四十銭	山本為親
4-10	分析工に備入 日給二円五十銭	戸倉孝之
"	" 日給二円四十銭	山本為親
"	分析手を命ず	分析工 戸倉孝之
"	"	山本為親
4-16	見習職工成業後契約満限につき増給 日給一円六十五銭	宮崎正雄
"	" 日給一円六十銭	佐々木龍一
"	"	野村寅一
"	"	本居 昇
"	" 日給一円五十五銭	兼田貞雄
4-25	依頼解雇	實驗手 金子米治
5-21	製圖手を命ず	製圖工 中村熊夫
"	分析手を命ず	分析工 和田武男
"	"	河村悟作

6-5-21	分析手を命す	分析工 妹尾英孝
"	"	" 坂本忠一
"	"	" 安弘文吉
"	実験手を命す	実験工 内山熊夫
"	"	" 伊藤堅治
6-6	校生を命し月給六十四円五十銭を給す	分析手 戸倉孝之
"	" 月給六十円	" 御手洗 滋
"	" 月給六十円	" 山本為親
"	研究部附を命す	校生 戸倉孝之
"	"	" 御手洗 滋
"	"	" 山本為親
7-15	刷版工に試傭 日給一円二十五銭	松本豊作
8-1	刷版工に傭入	松本豊作
8-15	兵衛軍工廠砲熧実験部に轉傭 日給一円六十五銭	実験工 勝屋 節
8-22	演習の爲召集を命せられ八月二十二日より二十一日間下関砲兵聯隊へ應召	校生 土井 茂
8-23	実験工に傭替	製圖手 中村熊夫
"	実験手を命す	実験工 中村熊夫
9-14	椎木と改姓	校生 岡田 榮
9-17	工務規則第二十八條第八段該當に依り解傭	実験工 内富政夫
10-1	実験工に試傭 日給一円四十銭	鈴木秀雄
10-21	実験工に傭入 日給一円四十五銭	鈴木秀雄
10-25	演習召集に依り十月二十六日より二十八日間歩兵第四聯隊へ應召	校生 北村 占
11-21	製圖手を命す	製圖工 星井熊雄

6-11-21	実験手を命す	実験工 小林真一
12-14	八木と改姓	" 石田佐一
"	校生を命し月給金四十三円六十銭を給す	石田一實
"	研究部附を命す	校生 石田一實
"	見習職工教習所教員を命す	" 石田一實
7-1-7	徴兵の爲依願解傭	分析工 林 茂人
"	"	" 田中 保
"	"	実験工 高橋 誠
"	"	分析工 野村寅一
1-14	分析工に試傭入 日給三円二十銭	植田 一郎
"	" 日給一円五十銭	久保田 正
"	"	福田 清
"	"	宮尾正元
1-23	分析工に傭入 日給三円二十銭	植田 一郎
"	" 一円五十銭	久保田 正
"	"	福田 清
"	"	宮尾正元
1-25	煉炭部製圖工より研究部実験工に傭替	実験工 伊賀崎忠雄
"	煉炭部仕上工より研究部実験工に傭替	" 山縣 武夫
3-13	工務規則第二十八條第一項第八條前段該當に依り解傭	" 森田貞登
3-17	分析工に試傭入 日給一円五十銭	中村近之進

6. 雇員以下出身学校並海陸軍出身者調
(昭和七年三月三十一日調)

出身別 工事別	帝國大學	高等工業學校	工業學校	中等學校	中等學校 中途退學者	海軍出身	陸軍出身	見習職工	成業者
燃料の實驗室研究	2	1	10						8
燃料の實用實驗		2		1		10			1
潤滑油の研究實驗		1	2						2
石油炭化の研究實驗 (研究科特別班)		1	7						1
生上(實驗科特別班第一部)		1	3			6			5
生上(實驗科特別班第二部)		1	1						
合成燃料の研究實驗		1	1						1
航空船用瓦斯燃料の製造			4			1			
燃料類の試験検査			9		1				6
資源調査			1	1	2				
工務				2	2	2	2		
教習所			4						
計	2	8	42	4	5	19	2		24

7. 昭和六年度職工勤務関係調

(1) 遅刻者調

月別	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	一	二	三	總延人員
延人員	0	2	0	5	1	1	0	2	0	3	2	0	16

(2) 公務員傷者調

月別	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	一	二	三	總延人員
延人員	1	9	2	0	1	3	3	3	1	0	0	1	24

(3) 公私傷病休業者調

月別	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	一	二	三	總延人員
延人員	公傷	0	2	1	0	0	5	0	0	0	0	0	8
	私傷	3	5	25	20	71	100	86	74	24	25	66	522

(4) 事故休業者調

月別	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	一	二	三	總延人員
延人員	38	47	22	31	25	43	32	33	21	33	20	25	370

8. 昭和六年度講演並雜誌會調

(1) 部内講演

回数	施行年月日	題目	講演者
48	昭和6-4-16	尿ではあるか	醫學博士 狹間章雄
49	6-4-17	第一項題 エセレンより芳香族炭 化水素生成の機作 第二項題 エセレンに熱の作用に 就て 第三項題 メタンに熱の作用に就て	技師 藤尾 誓
50	6-5-28	基督教に就て	技師 江口 孝
51	6-6-18	經濟問題に就て	主計大佐 佐藤富藏

52	6-6-19	不活性瓦斯の燃焼に及ぼす影響に就て 潤滑油の摩擦係数に就て	技 生 磯谷延治 嘱 託 景平一雄
53	6-8-26	建築の話	技 手 高橋良之助
54	6-8-27	各種重油及外部重油の性状に就て 泥油の處理に就て	機関少佐 並河 孝 嘱 託 住本誠治
55	6-9-22	外科瑣談	醫學士 塚越 潔
56	6-9-23	水素の製造に就て 高圧水素下に於ける塩化カルシウムの接觸作用に就て	機関中佐 嘉納吉彦 技 師 山口昌三
57	6-10-21	密柑の話	理學博士 小松 茂
58	6-11-27	低温度に於ける「アルコール」と揮発油の溶解性に就て 潤滑油合成に関する研究第一報	技 師 藤尾 誓 嘱 託 景平一雄
59	7-1-29	炭礦の話 噴霧實驗報告	機関中佐 榎本隆一郎 機関少佐 高橋伊三次
60	7-2-24	軍縮の話	機関大佐 柳原博光
61	7-2-25	石炭の熱分解に就て	嘱 託 住本誠治
62	7-3-30	石炭成分の分離に就て 一酸化炭素の燃焼に對する共存物の影響に就て Photo Cellに就て	嘱 託 住本誠治 技 生 磯谷延治 技 生 戸倉孝之

(2) 部外講演

場 所	年 月 日	題 目	講 演 者
京都帝國大學理學部 京都化學談話會	昭和 6-5-13	高圧水素下に於ける「エーテル」類の熱分解	技 師 小川 亨
"	"	第一演題「アセチレン」より 芳香族炭化水素生成の 機作 第二演題「エチレン」に熱 の作用に就て 第三演題「メタン」に熱の 作用に就て	技 師 藤尾 誓
呉鎮守府	7-10	燃料油及潤滑油に就て	技 師 秋田 穰
廣島商工會議所	10-11	液体燃料に就て	技 師 秋田 穰
東京工業化學會	12-17	各種重油及潤滑油の 性状に就て	機関少佐 並河 孝
"	"	潤滑油の合成に関する 研究	嘱 託 景平一雄
工業化學會 九州支部	7-1-23	航空機燃料に就て	技 師 秋田 穰

(3) 特殊講演

場 所	年 月 日	題 目	講 演 者
研究部講演室	自 6-5-4 至 6-5-15 (土曜日を除く)	化学に於けるX光線 の應用	技 生 磯谷延治
"	9-22	金属材料に就て	理學士 山内瀧人

(4) 講 習

場 所	年 月 日	題 目	講 演 者
研究部講演室	自 6-15 (毎週) 至 8-9 (月、水、金)	微分積分学講習	機関少佐 河野英雄
"	自 8-10 至 8-14	夏季数学講習	廣島文理科大学教授 戸田 清
"	自 10-13 至 11-12	電気工学講義	技 生 戸倉孝之

(5) 雑 誌 會

回次	年 月 日	題 目	講 演 者
39	昭和 6-4-7	融点と沸点と臨界温度との間の 関係に就て 噴霧状態にするに必要なる石油 の選擇 貯藏槽の防火に就て Lアルキルナフタレンの合成	分析工 藤井武志 分析手 和田武男 技 手 小林 進 技 師 山口昌三
40	4-21	石炭の酸化に就て 石炭の生成に就て 硝子器具の検査に就て 油類の比熱	分析工 内山英夫 技 生 棟近 薫 技 手 吉弘大作 機関少佐 並河 孝
41	5-5	高温に於ける油の比熱測 定に就て 石炭の崩壊とその適當なる 見解 分解溜出油の精製に就て	分析工 高村 始 分析工 大崎 勇 技 手 小池清澄

42	昭和 6-6-2	「サイクル」に就て 潤滑油の合成に就て 石油エマルジョン	實驗工 内富政夫 技 生 明石義作 嘱 託 佐本誠治
43	6-9	油粘度の温度による変化 水蒸気及炭酸瓦斯に對する 骨炭の反応性の測定 Lテトラリンの熱分解 飛行船に關する最近の情報	分析工 岩本友一 分析手 國居報一 技 手 高橋功夫 機関中佐 嘉納吉彦
44	6-23	石油類採取法 石油中の全硫黄を測定する ランボウ法の改良 一酸化炭素と水素より高級 アルコール合成の觸媒に就て 石炭液化に於けるLアンモニア 生成問題	分析工 伊崎作一 分析工 中村福治 技 生 井筒淳一 技 師 小川 亨
45	6-30	酒精解糖に就て 高圧下に於ける接觸反應	分析工 武居秀登 技 師 江口 孝
46	7-14	加熱乾燥空氣に依る水の蒸發 原油残渣の水素添加に就て 石油の水素添加に就て	分析工 藤井孝吉 技 生 藤井軍治 技 生 坂本貞彦
47	9-1	融解臭の測定装置に就て 鐵氧化物に依る都市瓦斯の 精製に就て 酒精揮發油の混合燃料 「オクタンナンバー」に就て	分析工 中村政夫 分析工 野村正治 技 生 山本爲親 機関少佐 渡邊伊三郎

48	9-15	熔融点測定の改良法 「アルコール」の酸化に就て 直流及交流電力の測定 高速「ディセル」機械に就て	分析工 藤本正美 " 三原正博 技 生 岡田 榮 技 師 秋田 穰
49	10-6	活性水素に就て 瓦斯精製に於ける有機性塩基 高圧下に於ける瓦斯の溶解度 油の「クラッキング」に對する温 度と時間との影響に就て 潤滑油の化学構造に就て	嘱 託 藤本春季 分析工 高橋松之助 " 光井米男 嘱 託 米谷省一 " 栗平一雄
50	10-20	酸化「バリウム」乾燥剤に就て 嵌合部の公差及隙間に就て 「オリフィス」を通過する蒸氣量 に就て 軌道の消火方法	分析工 佐々木龍一 技 生 桑原武夫 " 土井 茂 技 師 藤尾 誓
51	10-27	Boiler furnace 中に於ける硫 黄化合物の反應 石炭の自然發熱 「グラウン」管による密閉器中の 爆発の研究 歐洲視察談(「シーデ」の實驗) 室に就て	分析工 中川俊雄 分析手 安弘文吉 技 生 磯谷延昭 機関中佐 別所良三
52	11-10	電熱器の電流通過容量 天然瓦斯の熱處理 真空法による「アスファルト」の製造 日本學術協會大會の講演に 就て	實驗工 高砂正雄 技 生 福谷米輔 分析工 平井數馬 技 師 山口昌三

53	昭和 6-11-24	「クリセリン」による瓦斯乾燥法 褪色印画の復活 石炭瓦斯供給に就て	分析工 山時克治 技 生 世良鷹一 技 生 伊藤駿一
54	12-8	焰の一研究方法 分解油の安定化に就て 低温「タール」より「フェノール」 ホルムアルデヒド「レザン」の製造	分析工 西田安吉 技 手 野村數雄 機関少佐 並河 孝
55	7-1-19	水素添加による揮発油及潤滑 油の製造に就て 塩化「アルミニウム」の反應に就て 蒸氣張力の測定法に就て 燃料が飛行機の能力に及ぼす 影響に就て	分析工 宮崎正雄 技 生 北村 占 嘱 託 藤本春季 機関中佐 嘉納吉彦
56	2-9	「メタン」其の他の混合物の火焔 温度 火焔の性質 石炭成分研究方法の新しき 進歩 石炭成分を機械的に分離し 得る力	分析工 伊崎作一 技 手 中西 卓 分析手 妹尾英孝 嘱 託 住本誠治
57	2-16	「パーソンズ・タービン」の概念 方位の判定法に就て 水素添加法とその經濟的 意義	實驗工 勝屋 節 技 生 石田一實 機関少佐 横田俊雄
58	3-8	電氣熔接に就て 硫化「ソーダ」に依る定性分析法	實驗工 中村熊大章 技 生 白井 章

		灰軟化点測定法の制定に就て	技 手 吉弘太作
		英國に於ける石炭水素添加法の現況	技 師 小川 亨
59	3-22	十年後の発動機用燃料に就て 温度及氣温が燃料のレオクタン、ナンバークに及ぼす影響に就て	分析工 波多野源太郎
		鐵の窒化に就て	分析手 坂本忠一
		ノボルールの合成とアンモニア合成との比較	技 手 田島悦郎
			技 師 江口 孝

9. 特許関係調

特許年月日	特許番號	名 稱	発明者
大正 11-10-21	43758	石炭より液狀燃料を製造する方法	下田健市
" 14-9-10	65661	動植物油脂の石油化と油頁岩の乾溜とを同時に行ふ方法	下田健市 丸山 猛
" 15-7-8	68856	油頁岩の乾溜法に於ける改良	下田健市
昭和 2-1-21	70770	硫黄を含有せざる、ナフサリンを製造する方法	藤尾 誓
" 2-1-24	70804	油類脱水方法	小川 亨
" 2-8-26	73117	引火点高く且粘度少なる疊圧器油の製造法	別府良三 宮田吉郎

昭和 4-1-18	79898	石油ピッチの精製法	別府良三
" 4-3-7	80842	石炭液化方法	小川 亨
" 4-3-15	80928	船底塗料製造法	別府良三
" 4-6-5	82025	酒精變性法	江口 孝 松尾直士
" 4-7-16	82580	メタン瓦斯より水素及一酸化炭素を製造する方法	藤尾 誓
" 4-9-11	83198	潤滑油の性質を優良ならしむる方法	下田健市
" 5-10-2	88565	石炭の乾溜方法	並河 孝 島村 浩
" 5-12-28	88905	石炭、タール、硫油等を重要な液狀生成物に変ずる方法	横田俊雄
" 7-3-24	95140	炭化水素より水素を製造する方法	横田俊雄
" 7-5-26	9597 (特許特許)	水素及一酸化炭素含有瓦斯よりメチルアルコール合成用觸媒の製造	江口 孝
" 4-10-5	出願中	高圧装入唧筒	横田俊雄
" 6-3-14	出願中	石炭類を有用なる液体に変化する方法	小川 亨 高橋功夫
" 6-6-8	出願中	炭化水素瓦斯の分解方法	並河 孝
" 6-6-19	出願中	石炭、タール、ピッチ、アスファルト及之に類する瀝青物質等より重要な液体炭化水素を製造する方法	山口昌三
" 6-8-1	出願中	官油廢液より油分回收方法	小川 亨
" 6-10-10	出願中	洗炭法	佐本誠治

昭和7-1-15	出願中	遠心分離器の改良	佐本誠治
7-3-14	秘密特許出願中	頁岩油、重油、石炭タービ及其等の蒸溜生成物よりエチレン瓦斯を製造する方法	藤本春季

10. 昭和六年度主要行事調

年 月 日	記 事
昭和6-4-2	午後三時半より部長室に於て頁岩油の水素添加に就て小川部員説明
4-10	午後零時四十五分より講演室及研究部職工食堂に於て對数並に常識試験施行
4-14	午後三時より講演室に於て「ディセル」機械燃料油規格試験に關し秋田部員講演
~ 4-16	小松囑託研究指導の爲來廠
4-19	徳山本廠職工服業時間改正
4-28	午後二時より雇員及職工体重秤量検査
5-13	談話會代表者改選 (研究部職工食堂)
5-18	午前十一時より部長室に於て職工昇給會議開催
~ 5-22	燃焼試験器點検
5-21	午前八時半より研究部長部内巡視
5-22	恒例檢閲
5-23	恒例檢閲訓示研究部長より傳達 午後二時より煉炭部職工食堂に於て艦本回什の映画観覽

6-5-27	海軍記念日、午前八時五分より煉炭部職工食堂に於て廠長海軍記念日に關する講話施行
5-28	午後一時より講演室に於て波多野海軍中將の歐米海軍技術一般及産業合理化一般に就ての題する講演開催
"	小松囑託研究指導の爲來廠
"	午前十一時二十分より部長室に於て校生昇給會議開催
5-29	午後三時三十分より講演室に於て小松囑託討論會開催
6-3	山下軍需局長來部
6-10	午前九時より部長室に於て石炭液化裝置につき會議開催
~ 6-18	小松囑託研究指導の爲來廠
~ 6-19	松村商工政務次官及櫻井參與官來部
6-19	午前九時より講演室に於て石炭液化裝置に關し會議開催
6-22	午後三時より部長室に於て石炭液化會議開催
6-25	午前十一時三十分より部長室に於て石炭液化會議開催
7-3	午後一時より講演室に於て廣島憲兵分隊長の思想に關する講演開催
7-13	午前八時より研究部職工食堂に於て無駄無し安全週間に関する講話施行

- 6-7-16 海軍大臣安保大將來部
 ~7-17 小松囑託研究指導の爲來廠
 7-17 午後二時より講演室に於て小川部員の「石炭液化法」に於ける「アンモニア」合成法に就ての講演開催
 7-18 徳山海軍共済組合購買所並に同病院諮問委員改選
 7-20 横鎮附枝原海軍少將、艦本技術部長山本少將、海軍大學校長高橋中將、軍令部參謀及川少將來部
 7-21 午前九時三十分より煉炭部職工食堂に於て艦本回付の映画觀覽
 7-28 艦本第四部長中丸中將來部
 8-2 虹ヶ瀬に於て第四回睦會慰安大會舉行
 8-5 藥品鑑識競技施行
 8-7 午前八時四十五分より應接室に於て藥品鑑識競技審査會開催
 8-10 本日より二週間の豫定を以て午後一時より毎日二時間講演室に於て戸田廣島高等師範學校教授の數學講習開催
 8-21 午前十時より部長室に於て石炭類標準分析法會議開催
 ~8-27 小松囑託研究指導の爲來廠
 ~8-28 震災記念日、午前十一時四十五分煉炭部職工食堂に總員集合精神作興に関する詔書奉讀

- 6-9-2 午後一時三十分より部長室に於て航空燃料に関する討論會開催
 9-7 午前九時四十五分より煉炭部職工食堂に於て文學博士中村孝也氏の「軍人に賜りたる勅諭」に関する講演あり
 9-17 黄海々戰記念日
 ~9-22 小松囑託研究指導の爲來廠
 ~9-23 9-25 午前八時十五分より煉炭部職工食堂に於て法學士山下信義氏の「我等は如何に生くべきか」と題する講演あり
 9-28 午後二時より殉職者招魂祭執行
 10-1 午後三時十五分より煉炭部職工食堂に於て醫務部員の衛生講話あり
 10-5 本日より向ふ五日間虹ヶ瀬に於て徳山本廠従業員講習開始
 10-10 本日より向ふ七日間霞ヶ浦海軍航空隊第十六期整備學生實習指導開始
 ~10-21 小松囑託研究指導の爲來廠
 ~10-22 10-22 午後一時より講演室に於て石炭液化法委員會開催
 10-26 午後一時より講演室に於て揮発油取扱規程に關し會議開催
 10-28 雇員、職工作業秤量検査
 ~10-31 會計實況検査
 ~11-6 10-31 練習艦隊司令長官今村中將來部

- 6-11-2 午後一時より部長室に於て石油製品試験方法
に關し會議開催
- 11-3 午前九時より水源地構内に於て徳山本廠作育
大會舉行
- 11-5 午後一時より部長室に於て石油製品試験方法
に關し會議開催
- 11-7 午前十時より部長室に於て石油製品試験法及
石油類規格に關し會議開催
- 11-9 午後一時より 同 上
- 11-12 午後一時より部長室に於て石炭分析法會議開
催
- 11-13 午後一時より部長室に於て職工昇給會議開催
- 11-14 午前十時より煉炭部職工食事場に於て社會教
育家高島平三郎氏の修養に關する講演あり
- " 海軍燃料廠定員表改正 (内令第202号)
- 11-16 徳山海軍政務次官來部
- 11-26
~11-27 小松囑託研究指導の爲來廠
- 11-28 午後零時四十五分より煉炭部職工食事場に於
て映画觀覽
- 12-10 新任廠長吉國海軍中將着任
前任廠長岸本海軍中將退廳
- 12-11 午後一時より部長室に於て潤滑油に關する打
合開催
- 12-15 廠長研究部内巡視
- 12-21 午前十時三十分より部長室に於て石炭液化法

- 置反應管内管の前後處置に關し會議開催
- 12-21
~12-22 小松囑託研究指導の爲來廠
- 12-24 年末大掃除
- 12-26 午後一時より煉炭部職工食事場に於て衛生講
話あり
- 12-28 御用納 午後零時三十分退廳
- 7-1-1 午前九時十五分より教習所に於て 御眞眞拜
禮式舉行
午前十時十五分より煉炭部職工食事場に於て
新年互禮會開催
- 1-4 政始 勅諭下賜五十年記念式舉行
- 1-7 正午より煉炭部職工食事場に於て去る一月四
日勅諭下賜五十年記念日當日下賜せられたる
勅語傳達さる
- 1-9 研究部長年頭訓示
- 1-11 西村海軍參與官來部
- 1-13 午後三時より研究部長室に於て油類試験法に
關し會議開催
- 1-14 午後一時三十分より研究部長室に於て同上
- 1-20 午後一時より部長室に於て石炭試験法に關し
會議開催
- 1-24 睦會登山競争舉行 (四熊岳)
- 1-28 軍事參議官財部海軍大將來部
- 2-2 滿蒙資源調査開始
- 2-5 兵工廠水雷部長山下少將來部

7-2-8

午後一時より第二會議室に於て石炭液化法委員會開催

2-24
~2-26

小松囑託研究指導の爲來廠

2-27

午後零時三十分より集會所に於て耐寒飛行に對する燃料及潤滑油に關する打合會開催

3-1
~3-2

潛水學校機関學生七名教官一名來部 燃料及潤滑油に關し講義施行

—(終)—